

タイトル募集中

株式会社有電

第**1**号

2021年1月4日

タイトル募集中

vol.1

創刊号

2020.1.4 発行



代表取締役

ARIMURA TOMOYASU 有村朋泰

2003年（平成15年）に有電に入社した有村朋泰。当初は、右も左もわからない中からのスタートだった。勉強を重ね、成長を続けてきた有村の代表取締役としての覚悟に迫る。

「出向先で知った 「上に立つ」意味

入社1年目の年は、先輩社員の元で現場作業を学んだ。2年目に元請会社へと出向。次期経営者としての修業が始まったのだ。翌年からは現場管理を任せられるようになり、部下のミスをフォローし、クライアントからの叱責も一身に受けた。「上に立つ」ということは、「矢面に立つ」こと。その痛みは、役職が上がるにつれさらに強まっていく。

入社して5年ほど経つと、特高受変電設備の仕事を任せられた。ところが、この工事は土木の領域も関わってきて、これまでの知識や経験では太刀打ちできないものだった。実際、渡された資料に書かれている言葉の意味さえ理解できない。電気工事の仕事に携わり、少し自信ができてきた頃に味わった大きな挫折だったが、有村はこ

こで立ち止まることなく、この経験を大きな糧として成長を続けるのであった。

挫折を乗り越えて

有村は、専門書を現場でも常に携帯し、時間があれば目を通し、用語を覚えてきた。さらに、付随する言葉の意味を確認するべく、国語辞典まで持ち歩いたという。少しでも不明な用語が出てきたときは、その都度辞書を引き、言葉の一つひとつ調べた。

もちろん、失敗も多々あった。経験不足から、一度出来上がった基礎を再びやり、鋼材を取り付け直す事態になったことも。しかし、そうした積み重ねは自ずと自身の血肉となり、糧となっていたのだった。その甲斐あって、翌年、再び特高受変電設備の仕事を担当した際には、必要な知識は全て頭の中に入っていた。部下からの質問にもスムーズに答えられ、工事の段取りも問題なくできるように。土木工事への理解も深まり、自身の成長を実感したのであった。

タイトル募集中

社長となることの重み

「いつか、有電でも元請事業をやってみたい」。

そんなビジョンを胸に、10年間の出向を終えた有村は、取締役就任するべく、2014年4月に再び有電に戻ってきた。そして2015年12月、ついに社長として経営者のバトンを引き継ぐときがやってきたのだ。それまで「社長になる」ということは頭では理解していたが、正直、実感は伴っていなかった。社長交代に際して銀行の担当者から連帯保証人の契約書を渡されたときに、その「重み」が初めてのしかかってきたのだ。ハンコを持



つ手が震えた。

「これでもう、後戻りはできない。腹をくくるしかないんだ」。

くつきりと写った印影が、そう語りかけてきた。

「やるしかない」。

その日、有村は名実共に有電の代表取締役となったのである。

下請業者のまま成長することの難しさ

就任後、困難に直面するたびに迷い、試行錯誤をし、少しずつ会社の規模を拡大していった有村。その分、背負うものも大きくなっていく。そんな中、2019年に事件は起こった。既に契約が決まっていた大口の案件が、先方の都合で突如白紙に。悔しさでいっぱいだった。しかし、その肩に乗っているもの大きさを考えれば、自分の感情は二の次だ。すぐさま先方の会社を訪れ、「ごっか、仕事をください」と頭を下げたのだった。

懇意にしていた担当者の計らいもあり、なんとか別の仕事を受注することができたものの、その屈辱感忘れ

られない。下請けであり続ける以上、同じような状況が起こっても自分の力で立つ術さえもないのだ。先方の勝手な物言いであっても、受け入れ、懇願しなければならぬ。社員のことを思えば、頭を下げるなど安いものだが、「有電」という会社をぞんざいに扱われた辛さだけは看過できなかった。

新たな挑戦への決意

そこから、有村は一つの決意をする。

「元請事業に進出しよう」。

新たな顧客を開拓するのと同時に、元請として仕事をエンドユーザーから直接受注していくことを決めたのだ。現在は、その準備として社内報を活用した採用や、人事評価制度の整備など、社内体制の改革を進めている。「時間はかかるかもしれませんが、少しずつ実績をつくっていきたい。そのためには『人』が鍵となります。仲間がいてこそ、挑戦ができる。社員にはこれまでもたくさん助けてもらいました。安心して仕事を任せられます。

「ここで出会った縁を大切にしながら、共に会社をワンランクアップさせていきたい」。

今があるのは、社員の支えがあるから」という有村。仲間への感謝の想いと共に、新たなステージへ進むべく、邁進し続けていく。



企業情報

設立年：1981年4月

年商：5.8億円

※2020年8月時点

有電40年の「あゆみ」

長い歴史を経て今の形にたどり着いた有電。今回は、創設時を知る西川相談役と有村会長に、知られざる誕生秘話やそれまでの歩みについてお話を伺いました！

有村会長が当時携わった 施工事例 西春町庁舎

西山電気株式会社は、作業員として15歳から働いていた有村会長。西川相談役との出会いも、西山電気株式会社である。

● 建築概要		● 設備概要	
所在地	愛知県西春日町西春日大字西之保字本町13番地	基礎	コンクリート基礎
敷地面積	3,208.00㎡	構造	RC造
建築面積	961.80㎡	躯体	鉄骨
床面積	4,577.38㎡	設備	エレベーター、空調機、照明機、換気機、消防設備、防犯設備、衛生設備、給排水設備、電気設備
内訳	地下1階 804.42㎡ 地上1階 871.72㎡ 2階 915.85㎡ 3階 915.85㎡ 4階 934.07㎡ 延床 4,577.38㎡	電気設備	変電設備 3F 3W 6,600V 60Hz 受変電設備 300KVA ブレーカー 3F 3W 60A 配線設備 3F 3W 60A 照明機 100A 換気機 100A 消防設備 100A 防犯設備 100A 衛生設備 100A 給排水設備 100A
構造	RC造	空調機	冷暖房
躯体	鉄骨	照明機	LED照明
設備	エレベーター、空調機、照明機、換気機、消防設備、防犯設備、衛生設備、給排水設備、電気設備	換気機	冷暖房
消防設備	消火栓、消火器、防煙設備	防犯設備	防犯カメラ
衛生設備	トイレ、洗面所	給排水設備	給水設備、排水設備
給排水設備	給水設備、排水設備	電気設備	変電設備、配線設備
電気設備	変電設備、配線設備		

施工者
 建築衛生工事 真柄建設株式会社
 空調設備工事 菱和調温工業株式会社
 電気設備工事 西山電気株式会社
 昇降機設備工事 三菱電機株式会社
 家具、装飾 武田家具(株)、愛知(株)、中村室内装飾店(株)岡村製作所、日本ファイリング(株)

昭和30年代

昭和40年代

昭和50年代

昭和37年4月

現会長「有村明信」が 個人創業開始



当時の従業員数は3名。まだ若く仕事が大好きだった有村(現会長)は、土木作業や溶接工など、専門外のことに果敢に挑戦し続けた。

昭和56年4月

(有)有村電気工事会社を設立

お世話になっている取引先から「法人じゃなければ仕事がやりづらい」と助言を受け、(有)有村電気工事会社を設立。個人創業開始時代の3名で再スタートを切る。

平成元年



平成2年

平成2年4月

現相談役「西川勉」が (株)サンクス電業を設立

当時の従業員は、営業社員3名のみ。株主の大部分は、三菱電機と応援してくれていた西山電気という近しい人達だった。



平成15年

平成16年

平成15年6月

(株)サンクス電業と業務統合し、 (有)有電と改名発足

当時サンクス電業社長の西川相談役から「一緒にやりませんか?」との誘いが。兼ねてからの信頼関係もあり、改めて2人で手を取り合い、業務統合するに至った。(有村)

平成16年8月

(株)有電を設立

工事施工技術力と現場監督者の技術力を評価され、さらなる発展を目指し設立した有電。大型工事会社の組織、機能、高度な技術を習得し、急成長を遂げる。

後編に続く...

サンクス電業の仕事で職人が足りないときには、有村電気工事の社員が応援に駆けつけてくれた。次第に、会社同士の結びつきも一層強くなっていく。

取材こぼれ話

西川相談役の第一印象

出会いは17歳のころ。性格は正反対だと感じました。付き合い始めてから早60年経ちますが、どこか安心できる、まるで兄弟のような関係です。(有村)

有村会長の第一印象

私と正反対の性格で、とても穏やかな方だなという印象を抱きました。職人として大先輩でもある有村さん。もはや切っても切れない腐れ縁のような関係で、人生のほとんどの期間を共に過ごしていますね。(西川)



有電施設探検ツアー!

社内報の創刊を記念して、2回に渡り有電の施設をご紹介します!体験ツアーにご参加いただける気持ちで、本社を探検しましょう!ご家族の皆さまとも、楽しんでみてください!

役員室



会長と西川相談役のデスクがあります。3年前に増設してできた部屋の1つで、窓の向こう側は倉庫になっています。

社長室



社長のデスクと、応接スペースがあります。壁には社長が毎年気合を入れて臨む裸祭りの写真が飾られています。



オフィスフロア



手前から総務部、計画管理部、顧問、常務のデスクが並んでいます。お昼には通路を利用して、デスクワークで凝り固まった体をラジオ体操でほぐしています。



第1打合室

2階の玄関から入ってすぐの部屋です。来客対応や打合わせは大半ここでを行っています。



第2打合室

オフィスフロアと備品室の間にあります。打ち合わせが重なったときや、総務ミーティングのときに使用しています。



備品室

書類・事務用品の保管庫とオフィスメンバーの更衣室を兼ねています。図面出力用プロッターやデータサーバが置かれています。



駐車場



北側にお客様駐車場、南側に社員駐車場があります。マイカー通勤率が96%のため、毎日みっちり車が並んでいます。



後編に続く

創刊のお知らせ

この度、株式会社有電では社内報を発行することになりました！業務ノウハウや成功の秘訣、今だから笑える失敗談など、取材やアンケートなどを行い、社内報に掲載します。職場の環境改善や生産性向上に繋がったり、ご家族にも配布したりするなどして役立てましょう！

社内報 活用案

- ▶現場での取り組みを振り返る場として
- ▶様々な現場にわかれて働く皆さんのコミュニケーションの場として
- ▶現場技術者の皆さんについての理解を深める場として
- ▶ご家族に会社の様子を伝える場として
- ▶取引先の関係者様に安心してお付き合いしていただくための情報共有の場として
- ▶学生や求職者に有電の魅力を伝えるツールとして

毎月発行します！

毎月5日に配布します。まずはお手にとって読んでみてください！



インタビュー

創刊号では有村社長に巻頭を飾っていただきました！第2号以降は、活躍している社員の皆さんを紹介していく予定です！お忙しい中、インタビューやコメント作成にお付き合いいただき感謝しております。

コンテンツ

社員紹介だけでなく休日の過ごし方や最近のマイブームなど、普段の業務では知ることのできない幅広い企画を実施します。



担当者コメント

今年が創立40年の節目の年になります。ここまで成長しながら事業を続けてこられたのは、偏に皆さんのおかげと感謝しております。40周年の記念として社内報の発行を決めたのは、ここからの歴史を新たに記録し、後進に残していけたらと考えたからです。創立当初から会社と仲間を大切にこられた先人の歴史も折にふれて紹介していきます。この社内報の活用方法は、多種多様です。楽しく読んでいただける社内報になるよう、皆さんのお知恵を拝借できれば幸いです。



総務部 部長
有村みかさん



楽しく、読み応えのある社内報になるよう、ご協力よろしくお願いたします！

社内報のタイトル 大募集！

採用された方にはステキなプレゼントが贈られます！
何度でも応募可能ですので、どしどしアイデアをお寄せください！！
一緒にアンケートのご回答も宜しくお願いたします。

回答は
こちら！

応募期間 1/4~1/18



タイトル募集中

株式会社有電
社内報「タイトル募集中」vol.1
2021年1月4日